

巻頭言

この小冊子は、研究室のメンバー向けにまとめた、2009年度の研究室の記録です。

この期間の成果は、(1) 研究が有意に展開し、学会受賞が連続したこと（稲垣、舟浴）、(2) 原著論文が書けるようになったこと（舟浴、三浦）、(3) 新領域開拓の端緒が見えてきたこと（三浦、船曳）、です。今後、国際学会発表、論文発表も控えています。いずれも、じつは昨年からの教育体制が軌道に乗ってきたということです。大学院生の今後のさらなる活躍を期待します。

一方で、研究の遅れ・卒論提出の遅れ・来学時間の遅れ（セミナー遅刻欠席）が目立つ人もありました。自覚し、反省し、見習うべきは見習い、自ら改善すべきでしょう。「勉強する人とならない人」とでは人生に大きな差がつきます。このことは、篠田先生の教えでもあります。

今年度は、長年の念願がかない、篠田義明先生（早稲田大学名誉教授）に来学頂くことができ、「若手研究者のための英語論文作成法」「日本語の論理構成」の二回にわたり講義いただきました。とくに後者は、社会へ出る卒業者へのはなむけでもあります。あの講義には、篠田先生の人生哲学を学ぶことができたはずです。在学者に対しては、研究室教育の一環です。新年度、私が今までのように添削に直接時間を割くことができなくなっても、皆が自ら良い文書を作れるためにです。

あの講義内容が、将来にわたって役立つだろうことは感じる事ができたと思います。研究室生活も同じです。生涯にわたって、必ず役に立ちます。それを実証する事柄が、現に卒業生の活躍に見られます。ですから、安易に墮することなく、真剣に、積極的に、日々学術研究に励んでください。

（2010年3月 持田）